

お知らせ

記者発表資料
配布日時

令和3年8月31日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

「中国ブロックにおける社会資本整備重点計画」が決定されました

～ストック効果の最大化を目指します～

1. 概要

中国ブロックにおける社会資本整備重点計画は、中国ブロックの特性に応じて重点的、効率的、効果的に社会資本整備を実施するための計画として、第5次社会資本整備重点計画（R3.5.28閣議決定）に基づき策定するものです。これまで、地方公共団体や地方経済界、有識者等との十分な意見交換を行い、今までの社会資本整備の視点である「自然災害への対応」や「老朽化への対応」などに、「デジタル革命の加速」や「グリーン社会への実現」、さらに「新型コロナウイルス感染症の拡大」を加え検討し、6つの重点目標を策定しました。

重点目標1 防災・減災が主流となる社会の実現

重点目標2 持続可能なインフラメンテナンス

重点目標3 持続可能で暮らしやすい地域社会の実現

重点目標4 経済の好循環を支える基盤整備

重点目標5 インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）

重点目標6 インフラ分野の脱炭素化・インフラ空間の多面的な利活用による生活の質の向上

今後、本計画を踏まえ、インフラのストック効果を最大限発揮できるよう、重点的、効率的、効果的な社会資本整備に努めて参ります。

2. 添付資料

- ・「中国ブロックにおける社会資本整備重点計画 概要」

※計画書（本文）の詳細は、以下のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

◇中国ブロックにおける社会資本整備重点計画

<http://www.cgr.mlit.go.jp/juten2015/juten03.htm>

<問い合わせ先>

中国地方整備局企画部企画課

課長

しばやま
柴山（内線3151）

建設専門官

たかざき
高崎（内線3153）

TEL 082-221-9231（代表）

中国ブロックにおける 社会資本整備重点計画の概要



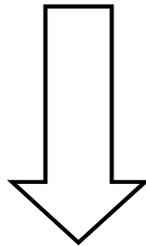
国土を**整**え、全力で**備**える
国土交通省
中国地方整備局

- 社会資本整備事業を重点的、効果的かつ効率的に推進するため、おおむね5年を1期として、社会資本整備重点計画を策定
- 中国ブロックにおいても令和3年5月28日閣議決定された全国計画に基づき、中国地方の特性に応じた社会資本整備重点計画を策定

国土形成計画

- ・長期的な国土づくりの指針(国土形成計画法)
- ・計画期間:平成27年から概ね10年間

調和を
図る



中国圏広域地方計画

- ・各地方ブロックの国土の利用、整備及び保全に関する将来像や地域戦略等を示す(国土形成計画法)
- ・計画期間:平成28年から概ね10年間

[将来像]

- ・激甚化・頻発化する災害にも対応する安全・安心な中国圏
- ・国内外の多様な交流と連携により発展する中国圏
- ・産業集積や地域資源を活かし持続的に成長する中国圏
- ・豊かな暮らしで人を惹きつける中山間地域や島しょ部を創造する中国圏

調和を
図る

中期的な社会資本整備の具体的指針

社会資本整備重点計画 (全国計画)

令和3年5月28日閣議決定

- ・社会資本整備事業を重点的、効果的かつ効率的に推進するため整備の概要を定めたもの(社会資本整備重点計画法)
 - ・前計画期間 : 平成27年度～令和2年度(概ね5年間)
- ⇒次期計画期間:令和3年度～令和7年度(5年間)

次期計画の特徴:

- ・インフラ分野DXと脱炭素化に係る目標追加
- ・地方計画における事業の見通し(完成時期や事業費の記載)、インフラ経営、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の取組明示に関する記載

中国ブロックにおける社会資本整備重点計画

令和3年8月31日大臣決定

- ・全国レベルの重点計画に基づき、各地方の特性に応じて社会資本を重点的、効率的、効果的に整備するための計画
 - ・前計画期間 : 平成27年度～令和2年度(概ね5年間)
- ⇒次期計画期間:令和3年度～令和7年度(5年間)

激甚化・頻発化する災害にも対応する 安全・安心な中国圏

- ▶ 平成30年7月豪雨をはじめ、激甚化・頻発化する自然災害にも対応できる高い地域防災力を備える
- ▶ 加速するインフラの老朽化へ対応するため、予防保全の観点によるトータルコストの削減を図り、安全性を高める

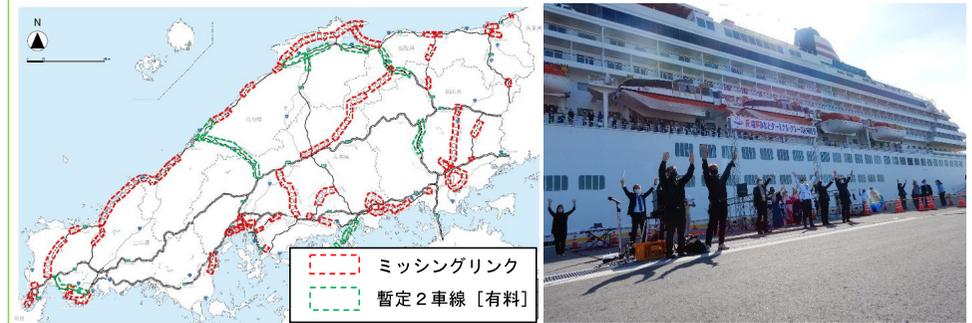


平成30年7月豪雨の被災状況

損傷が著しい橋梁

国内外の多様な交流と連携により 発展する中国圏

- ▶ 近隣ブロックとの人流・物流は増加傾向にあり、交通網のミッシングリンクの解消や圏域の魅力向上により、さらなる人流・物流を活性化させる
- ▶ 各県ともに訪日外国人旅行者が増加傾向にあり、文化・経済・観光の魅力発信から国内外の交流を促進する



高規格道路のミッシングリンク

クルーズ船の寄港 (境港)

産業集積や地域資源を活かし 持続的に成長する中国圏

- ▶ 東アジア等との貨物量増加等を踏まえ、道路や港湾等の交通網整備による経済成長の基盤整備を推進する
- ▶ 入込観光客数は増加傾向にあり、世界遺産をはじめとした観光地の魅力向上と観光周遊ルートの形成により観光を活性化させる

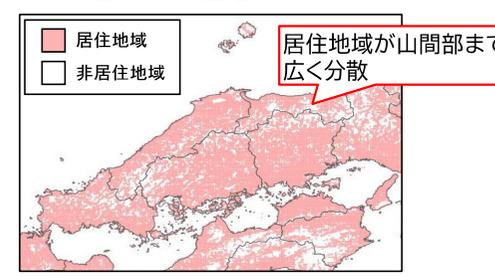


地域経済の発展に資する港湾 (浜田港)

中国ブロックの世界遺産

豊かな暮らしで人を惹きつける 中山間地域や島しょ部を創造する中国圏

- ▶ 人口減少や高齢化の進行に加え、小規模集落が広く分布している地域構造を踏まえ、小さな拠点を形成し、中山間地域等を活性化させる
- ▶ 近年、急速に進展するデジタル技術を活用し、中山間地域等の魅力を引き立て、地域を活性化させる



居住地域の特徴



自動運転サービスの実証実験 (道の駅赤来高原)



新型コロナウイルス感染症の拡大 ⇒ ウィズコロナ・ポストコロナ時代における持続的な経済成長を実現することが重要

重点目標 1

防災・減災が主流となる社会の実現

【目指すべき姿】

激甚化・頻発化する、または切迫する自然災害に対し、強くしてしなやかな国土の形成により、住民が安心して生活を送ることができる社会を実現する。

【主な重点施策】

- 平成30年7月豪雨の被災地等における再度災害防止対策と災害の激甚化・頻発化に対応した事前防災の加速化・深化
- 国民の安全・安心を確保するため、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」の推進
- TEC-FORCEの派遣等による応援・救援体制の強化

【取組例】



重点目標 2

持続可能なインフラメンテナンス

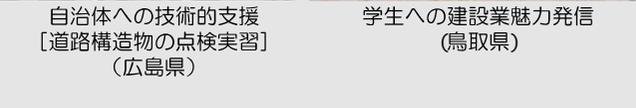
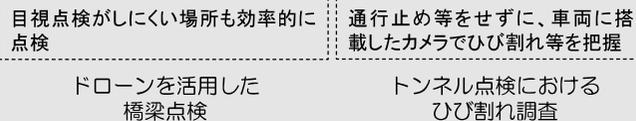
【目指すべき姿】

予防保全に基づくインフラメンテナンスへの本格転換によるトータルコストの縮減や新技術等の導入促進により、持続可能なインフラメンテナンスを実現する。

【主な重点施策】

- 予防保全を基軸としたインフラメンテナンスサイクルを構築し、インフラの戦略的な維持管理
- 産学官との連携等による新技術の開発・活用、施工や維持管理・更新の自動化・省力化の推進による、現場の生産性向上
- 建設業と連携した講習会の実施等による建設事業者の担い手の育成・確保

【取組例】



重点目標 3

持続可能で暮らしやすい地域社会の実現

【目指すべき姿】

利便性の高い都市や自然豊かな中山間地域が連携し合う多核連携型の地域づくりを進めるとともに、ユニバーサル社会やライフスタイルの多様化へ対応した社会を実現する。

【主な重点施策】

- 地域活力を支えるコンパクト・プラス・ネットワーク化、小さな拠点の形成
- 生活道路等の危険箇所における安全・安心な移動空間の確保
- 官民連携による未来志向の取組や公共交通施設の機能強化
- ユニバーサル社会の実現、ライフスタイルの多様化への対応

【取組例】



重点目標 4

経済の好循環を支える基盤整備

【目指すべき姿】

近接する東アジア等をはじめとする世界経済の成長力を取り込み、持続的な成長を推進する中国ブロックを実現する。また、ポストコロナ時代において地域経済を支える基盤整備を行い、地域経済を再生させる。

【主な重点施策】

- グローバル産業の競争力強化や東アジア等との交流拡大のための人流・物流ネットワーク基盤整備
- 魅力的な観光地を結ぶ広域観光を支える交通ネットワークの活用・強化
- 官民連携によりインフラ整備や整備以後のマネジメントまで含めた包括的な取組の推進

【取組例】



人流・物流を支える拠点の整備（境港）



トラックによるコンテナ輸送



交通ネットワークの形成

重点目標 5

インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX)

【目指すべき姿】

「新たな日常」の実現も見据え、デジタル技術を最大限利活用することで、新たな価値の創出による安全・安心で豊かな生活の実現を図る。

【主な重点施策】

- i-Construction推進計画に基づく魅力ある建設現場の構築
- 基幹テクノロジーを活用したインフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し、労働生産性の向上
- あらゆる地域のあらゆる人が移動しやすい豊かな社会の実現を目指し、日本版MaaSの実現

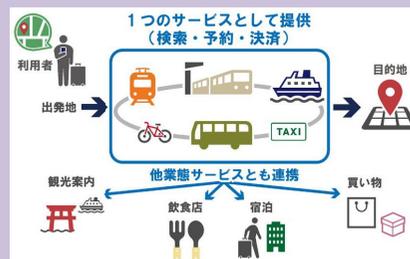
【取組例】



IT施工による生産性の向上



A 技術を活用した法面崩壊の予測



日本版MaaSの概念図

重点目標 6

インフラ分野の脱炭素化・インフラ空間の多面的な利活用による生活の質の向上

【目指すべき姿】

インフラ分野の脱炭素化等によりグリーン社会の実現とインフラの機能・空間を多面的・複合的な利活用により、インフラのストック効果を最大化し、住民の生活の質の向上を目指す。

【主な重点施策】

- 豊かな自然環境等を保全・活用し、グリーン社会の実現
- インフラ空間等を再編し、快適な都市空間の創出

【取組例】



1 森林保全による水産資源生育環境の保全



2 雨水滞水池による未処理放流の抑制



3 ブルーカーボンを活用したCO2削減



4 種苗放流による水産資源の維持

広島湾再生プロジェクト



水辺の楽校による活用



河川空間の利活用（佐波川）



整備前



整備後

歩行者にやさしい道路空間の創出（岡山市）

出典：岡山市提供